

平成30年 第18週 平成30年4月30日（月）～平成30年5月6日（日）

熊本市 感染症発生動向調査 速報



●今週のピックアップ感染症 風しんについて

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。
 現在沖縄などで流行している麻疹（はしか）に比べて、症状が軽く済む事が多いのですが、風しんに
 対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、胎児が風しんウイルスに
 感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れなどの障がいをもった赤ちゃんがうまれる
 可能性があります。これらを先天性風しん症候群といい注意が必要です。
 また、成人で発症した場合、症状が重くなることがあるため、決して軽視できない疾患です。

◆どんな病気？

14～21日（平均16～18日）の潜伏期間後、発熱、発しん、リンパ節腫脹（おもに耳介後部、後頭部、頸部）が出現。発熱は風しん患者の約半数にみられる程度です。また不顕性感染（感染したにもかかわらず症状が現れないこと）が15（～30）%程度存在します。特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあります。

感染経路は飛沫感染、接触感染の他、母親から胎児へ胎盤を通じて感染する母子感染（胎内感染）もあります。

◆かかったらどうすればいいの？ 特別な治療法はなく、症状を和らげる対症療法のみで、発熱、関節炎などに対しては解熱鎮痛剤が用いられます。

◆予防法は？

風しんの予防のためには、予防接種が最も有効です。
 熊本市では、風しん抗体検査や予防接種の費用を一部助成する制度があります
 （ただし、対象となる条件があります）。
 詳しくは、ホームページか、熊本市感染症対策課までお問合せください。



熊本市風しん検査QRコード↑



麻疹と風しん、名前が似ているから間違えやすいよね…

期 間		平成30年 17週		平成30年 18週	
		4/23～4/29		4/30～5/6（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	7	0.28	3	0.12
RSウイルス感染症	➡	8	0.50	3	0.19
咽頭結膜熱（プール熱）	➡	6	0.38	1	0.06
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	24	1.50	14	0.88
感染性胃腸炎 ⚠	⬇	114	7.13	41	2.56
水痘（みずぼうそう）	➡	3	0.19	0	0.00
手足口病	➡	32	2.00	20	1.25
伝染性紅斑（りんご病）	➡	0	0.00	0	0.00
突発性発しん	➡	21	1.31	12	0.75
ヘルパンギーナ	➡	0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	➡	3	0.19	1	0.06
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）	➡	11	2.20	6	1.20
細菌性髄膜炎	➡	2	0.40	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	➡	2	0.40	0	0.00